(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

3. 佐渡金銀山の歴史とその意義

【①古代】おもに8・9世紀

＊中国中心の東アジアでの律令国家成立。それに伴う寺社の造営、銅銭鋳造等

【黄金山産金遺跡】（宮城県涌谷町S42）

・陸奥守百済王敬福が黄金900両(13.5kg)を献じ、その金を用いて天平21年（749）東大寺大仏は完成。聖武天皇はこれを喜び「天平感宝」と改元。
・s32発掘調査で六角堂を確認
・日本遺産「みちのくGOLD浪漫―黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる―」

【長登銅山跡】（山口県美祢市、H15）

・長門国直営の鉱山として銅と鉛を産出。和同開珎など皇朝十二銭や東大寺の大仏など国家的事業に使用された。江戸期には寛永通宝も。
・平成期に発掘調査、木簡多数出土。

ここから、佐渡島の金山の話です。鉱山の歴史を見ると、3つくらいの画期があります。奈良・平安時代の8・9世紀、戦国・江戸時代の16・17世紀、明治時代の19世紀です。どの時代も、国家的な政策によって大規模な鉱山開発が行われました。8・9世紀は、大仏を作るために陸奥国から金が産出されました。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

【②中世末・近世】おもに16・17世紀

＊戦国大名・織豊政権・江戸幕府の開発・経営、国際的な金銀取引

・石見銀山遺跡（島根、S44指定）世界遺産

・佐渡金銀山遺跡（新潟、H6）

＊県指定s33、翌年国指定へ動く、s42国答申。史跡としての価値は早くから認められていた。

・延沢銀山遺跡（山形、S60）

・甲斐金山遺跡（山梨、H9）　足尾銅山遺跡（栃木、H19）

・多田銀銅山遺跡（兵庫、H27）

【③近代】明治以降

＊近代国家建設と西洋の技術導入

・佐渡、石見、多田など近世から継続・展開多い。

16・17世紀は佐渡、石見、山形の延沢、山梨の甲斐、兵庫の多田など。それから明治ということになります。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

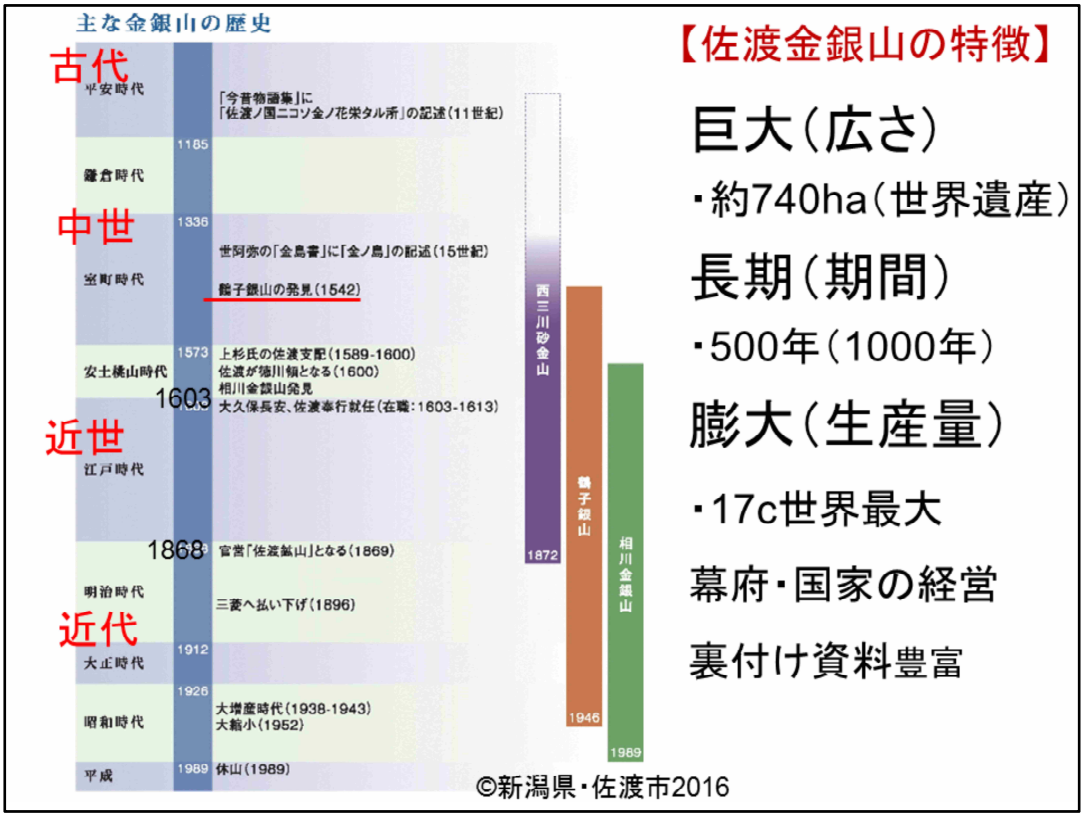
積み重ねてきた膨大な調査（行政・専門家）

- 世界遺産登録のためには、文化財の価値を明らかにして、史跡や重要文化財の指定等を図ることが不可欠。
- そのために専門的かつ綿密な調査が必須。
- 佐渡市等の職員が四半世紀以上、多くの調査を実施し、多大な成果を上げてきた。
- 地表面（分布）、測量（実測）、発掘（遺跡）、絵図・古文書、石造物、建造物など
- 調査報告書は50冊以上にのぼる。

＊金銀山の歴史と実態がこれほど解き明かされたことは快挙です！

佐渡はこれまで20年近く、本当に多くの人が調査に携わってきました。これは地道な調査の積み重ねで、この結果、佐渡の世界遺産としての価値が証明されてきています。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁



佐渡金銀山の特徴としては、まず巨大だということ。世界遺産の対象となる遺跡だけで約740ヘクタールにのぼります。これはかなり広大です。そして、経営された期間が長期にわたるということ。平安時代から数えれば1000年、盛んに採掘されてからも400年から500年です。さらには、生産量が膨大であるということ。17世紀では世界最大級でした。

また、佐渡にはいろいろな資料が残っています。鉱山で行われた作業というのは非常に分かりづらいのですが、絵図が豊富に残っていることで、当時の様子がよく分かります。それから、世界の金がどれくらい産出され、日本はどのくらいそれに寄与したかというのは、少なめに見積もっても17世紀までは世界の産出量の2割から3割を占めていたとされます。銀は、日本各地にありますが、国内の産出の大半は佐渡であります。金と銀は日本の中で、佐渡が圧倒的です。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

遺跡も空撮でないと全体が分からないほど広大です。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

県文化行政課内の遺跡論争

【昭和63年（1988）】

＊s63年当時、分布調査で確認された江戸時代の鉱山町を遺跡と認定するかどうか、県の内部では議論があった。

江戸時代の鉱山町（上相川・上寺町）

興禅寺跡石垣

法久寺跡墓地

坂井秀弥「佐渡相川金山遺跡のこと」

（1992年11月26日）これがこの年の初雪であった。道の両側の斜面が雛壇状に造成されていることは、登りながらうかがえた。山道がやや急になったあたりで、道から脇に入った。藪をかき分けていくと、そこは平らに削平された区画であることはわかった。（略）墓石がいくつか散乱している。建物の礎石らしいものも見られる。そこは寺跡だったのだ。まったく荒らされず、そのままの状態で残っているのだ。（略）**まぎれもなく近世初期に栄えた町がそのまま眠っている。**私はこの感を強くした。白い息を吐きながらの下山は寒さも感じず、なんとも言えぬ満足感に包まれていた。（『ゆり板』13,1995）

地表面の石磨（いしうす）

山の中には、当時開かれた鉱山町の風景が残っています。地元では前から知られていたのですが、行政が認識したのは、1988年の県の調査のときでした。当時、江戸時代のものを遺跡として扱うかどうかについては議論があったくらいです。今から思えばずいぶん陳腐な議論をしていたかもしれませんが、当時の遺跡に対する時代感というものは、江戸時代のもの、さらには明治以降のものは、非常に新しいもので、文化財として扱ってよいものかどうか論争があったということです。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

相川金銀山跡 佐渡奉行所跡

©佐渡市

撮影：有限会社モノクローム新潟

22

奉行所もかなり力を入れて復元されていまして、その地下からは貴重な遺物が見つかっています。

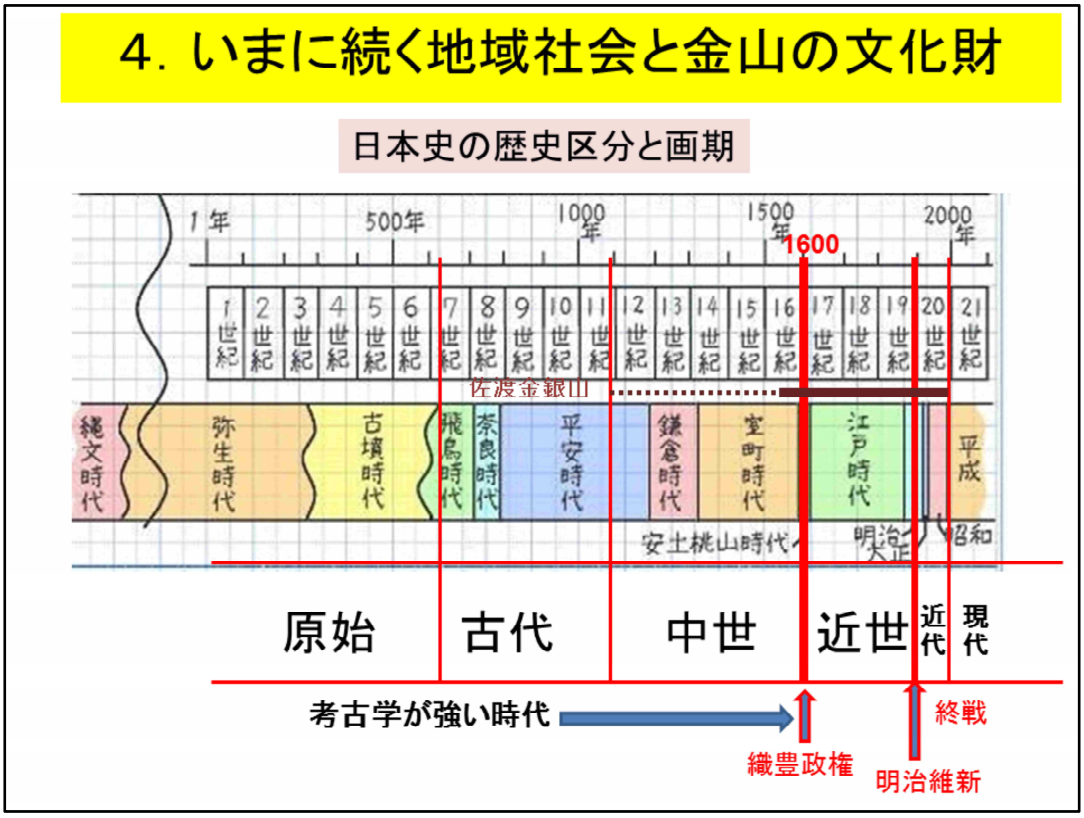
(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

奉行所跡敷地南西隅の精錬炉跡群。29基の竈が出土（長竈1基、丸竈6基、中仕切竈14基、形態不明竈8基）。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

明治以降の近代の遺跡はかなり新しいものですが、現代から見れば極めて重要な遺跡です。ただ、こういう新しいものを遺跡として認識できたのは、それほど昔ではないのだということです。

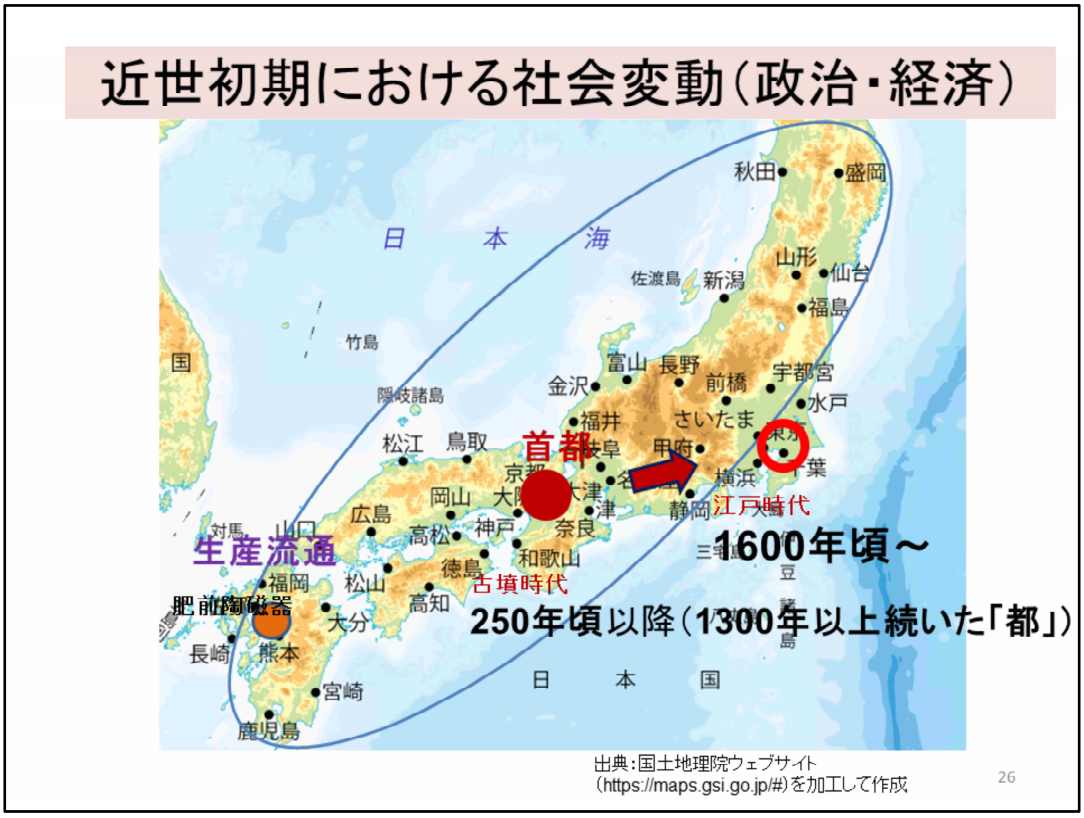
(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁



改めて、歴史的に金山の時代がどういうものだったかをご説明します。

我々はよく、歴史を原始、古代、中世、近世、近代、現代と大きく区分します。1600年頃からを近世といいます。明治維新から終戦までの間を近代、それ以降を現代と呼びます。この中で日本社会が大きく変わってきて、それにはいくつかの段階があるのですが、私は、現代から見ると現在の地域社会の基本ができたのは、一番大きな画期は1600年前後と考えています。織田信長、豊臣秀吉の政権ができて、徳川幕府ができるまでの頃です。佐渡金銀山は、ちょうどその50年ほど前から、本格的な開発が始まっていますから、だいたいここに一致します。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁



この変化を日本地図で見ると、250年頃から1300年以上続いた都は近畿地方にありました。奈良や京都です。邪馬台国がどの辺かという議論はありますが。都が近畿から江戸に移ったという変化は、かなり大きなものです。1600年前後に江戸幕府が開かれ、政治と経済の中心が移りました。ここから現代につながる地域社会は大きく変化していくのですが、考古学を専門とする人間からすると、この変化を何で感じるかというと、焼き物なのです。かつては、京都の周辺地域でたくさん作られて、そこから放射状に流通していきました。1600年前後になると、佐賀や長崎で陶磁器の生産が始まります。技術は朝鮮半島から来るのですが、ここで作られた焼き物が全国に流通していきます。首都の移動というのは単なる移動ではなく、政治や経済を根底から変える動きなのですね。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

現代社会の中核をなす都市の成立

- 佐渡金銀山が栄えた1600年前後の時期は、現代の地域社会の成立にとって大きな画期であった。
- 日本の首都東京は、1603年成立の江戸幕府の拠点「江戸城」と一体をなす城下町（都市）。（江戸時代の城づくりは信長・秀吉に始まった）
- 地方都市も1600年前後（近世初期）に成立した城と城下町に始まるものが多い。人口・経済の拡大、地域の核が成立
  - ・所在地の約7割は城下町に起源、港町の新潟も同じころ
  - ・明治維新の廃城後も、都市はそのまま存続し現代へ
  - ・明治期に成立する都市もある（横浜・神戸・宮崎など）
- 社会の大変革の背景に、1500年以降の大航海時代に象徴される世界的な大変動があった。

地方都市も、県庁所在地の7割は、この時期の城下町が由来です。高田も城下町ですね。

高田城も、地元の人であれば、昔の地図と今の地図との対応関係が分かるかと思います。それは、江戸時代にできた城下町が現代までずっとつながっている結果です。

今の東京の町も、基本的にこの江戸城の城下町によってできています。私はお茶の水の風景が好きなのですが、江戸城の外堀や城壁が見られます。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

地域社会の衰退と文化財の危機

- いま文化財を支える地域社会は、人口減少・少子高齢化の進行し、市街地の空洞化、伝統的集落の衰退が急速に進行している。
- 長く続いてきた都市・町や集落には、人びとの営みを伝える寺社や店舗・住宅などの建物や町並み、神社の祭礼・民俗芸能、暮らしの道具、様々な古文書、生業・生活によって形づくられた伝統的な景観など、さまざまな貴重な文化財が残されている。いまそれが消滅の危機に瀕している。
- 当たり前の存在だったものが失われていくとき、それを何とか残したいという思いが生まれる。モノや文化の衰亡が「文化財」の意識を醸成するといえる。

28

実は、こうして1600年頃にできた地域社会が、今、大きく変動しています。そこに文化財の問題も生じています。町が続いていると、いろいろな文化財が残っています。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

京都には、世界無形文化遺産の祇園祭があって、これは500年近く続いていますが、これは町が存在するから維持されているわけです。祭だけでなく建物や芸能も、町が衰退すると途絶えてしまいます。今、全国でシャッター街のような問題が起きていますよね。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

地域づくりと文化財政策（行政）

【生きた文化財・まちの保護制度】

① 伝統的建造物保存地区（1975）　歴史的町並み（通称「伝建」）　妻籠宿・白川郷

② 近代化遺産（建造物）の指定（1993）、文化財の登録制度（1996）

③ 文化的景観の制度創設（2004法改正）

④ 歴史文化基本構想（2007）

⑤ 歴史まちづくり法（2008）国交省等共管

⑥ 文化財保護法改正（2018）近年の政策総括

✓ 現代の地域社会に息づく、近世以来の多様な文化財の保存活用をめざす。地域住民と一体となった活動こそが重要。－近年の世界遺産の取組みとその実践

ここ20年ほどの文化財政策を見ますと、石見の紹介でも触れましたが、1975年に伝統的建造物保存地区という制度ができました。これによって、白川郷や妻籠宿が文化財になりました。

その後、新しい文化財をどのように守っていくかという議論がなされ、明治以降の建物も保護していこうという動きが1990年代から始まります。それから、世界遺産の動きに影響も受け、文化的景観の制度が2005年にできました。それから、2007年には歴史文化基本構想というものを文化庁が打ち出しました。さまざまな文化財が地域社会にあるから、指定されているものもされていないものも文化財としてきちんと認識して、それをどう守っていくか考えましょうということを提唱したのです。それと同時に国交省と文化庁が一緒になって、歴史まちづくり法というものを作ります。そして、2018年の文化財保護法の改正が行われたということです。現代の地域社会に息づく、近世以来の多様な文化財の保存活用を目指すというのがこの制度ですが、このように、様々な施策が打ち出されています。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

文化財保護における「三位一体」の取り組み

- ①専門家（学術的支援）、②行政（制度的・財政的支援）、③住民・市民（主役）が三位一体で取り組むことこそが、最も重要である。

①**専門家**：学術的な支援（歴史・都市計画・教育などの観点から、資源の価値認定や保存・活用の政策提言など）

②**行政**：制度的（法的・財政的）な支援

③**住民・市民**：文化財の保存・活用・継承の主体者。「まちづくり」の主役。

民間→地域のボランティア、各種団体、企業等に広がりをみせている

こうした文化財には、住民の生活とともにあるという特徴があります。住民が生活している町や村の中にありますから、その保護は、地域住民と一体となった活動が重要です。近年の世界遺産の取組は、ここに重なるわけです。冒頭に申し上げた、文化財保護における三位一体の取組というのは、専門家は様々な観点から学術的な支援をし、行政は制度的、財政的な支援をし、住民・市民こそが文化財継承の主体であると。住民・市民には、市民ボランティアだけでなく、企業や各種団体も含んでいて、その広がりがかなりできてきています。佐渡もいろいろな企業団体から支援を受けていて、これは大変喜ばしいことです。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

10月下旬に、久々に佐渡の相川を訪れました。重要文化的景観に選定されている京町通りが、とてもきれいに整備されていました。私が最初に訪ねた13年前は、どこか寂れた感じがありましたが、今は生きている、あたたかい町だと感じます。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

佐渡の活動の写真を見ると、住民の草刈りやボランティアガイドの人たちの取組に加えて大変うれしいのは、新聞にも出ていましたが、子どもサミットのように、子どもたちが世界遺産を学んで将来を担うということです。最近は持続可能というのがキーワードになっていますが、私は文化財の制度そのものも大事だと思いますが、そこに一体となる地域の方々の営みや、将来を担う子どもたちを大事にしていくことが、持続可能という観点からも重要だと思います。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

北沢浮遊選鉱場では、夜になるときれいにライトアップされます。今までは文化財は教育的な観点から見られていましたが、文化観光の素材というような見方もされています。多くの方に関心をもっていただきたいと思います。

また、さまざまな人に文化財が受け止められている中で、近年、大変大きな盛り上がりを見せているのが、女性と若者です。学生と11年間過ごした中で思うのですが、アニメなどに非常に関心があって、そこから刀剣などすごく人気があります。あとは前方後円墳がかわいいとか見る方もいます。女性や若者に関心をもってもらえるというのが、自分たちの伝えてきた伝統的な文化がこれからもつながっていくということを期待できます。

(c)坂井秀弥　無断転載・複製厳禁

まとめ

- 世界遺産をめざして、これまで継続してきた調査研究により、佐渡金銀山の歴史を解き明かし、その文化財の保存活用を精力的に実施してきた。学術的・行政的成果は大きい。
- 地域の人びとが、これまでこの地に生きた人びとが積み重ねた営みに慈しみの念をいだき、わがまちを見直すことができるようになった。
- 現代の地域社会には、どこも佐渡金山の時代から続く、生きた文化財が多い。行政、専門家、住民・市民が一体となり、地域の文化財を慈しみ、わが町を育んでいきたい。

最後のまとめです。世界遺産を目指してこれまで継続してきた調査研究により、佐渡金銀山の歴史を解き明かし、その文化財の保存活用を精力的に実施してきました。学術的・行政的な成果は非常に大きいものがあります。そして、その過程で地域の人々が、これまでこの地に生きた人々が積み重ねた営みに慈しみの念を抱き、我が町を見直すことができるようになったと思います。現代の地域社会には、どこも佐渡金銀山の時代から続く、生きた文化財が多くあります。行政、専門家、住民・市民が一体となり、地域の文化財を慈しみ、我が町を育んでいきたいと思います。

かつて、私が携わってきた文化財行政とはかなり状況が変わってきています。今の地域社会に生きる文化財をどのように活用し守っていくかということについては、市民の皆様の力が最も大きく、期待されるのだということを申し上げて、本日の講演を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。